

令和7年度ブラッシュアップ事業 授業改善研修会(中学校 社会科)

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、11月5日に一関市立藤沢中学校で行われた中学校 社会科の研修会について紹介します。

◆◆◆部会テーマ◆◆◆

深い学びの実現に向けた授業づくり

ー社会的な見方・考え方を働かせる問いの設定と評価方法の充実をとおしてー

◆◆◆授業の視点◆◆◆

- (1) 単元(単位時間)において、社会的な見方・考え方を働かせる問いが適切に設定されていたか。
- (2) 単元(単位時間)において、指導と評価の一体化が図られていたか。

～ブラッシュアップメンバー～

授業者 一関市立藤沢中学校 佐々木 悟 教諭
支援員 一関市立一関東中学校 田口 雄斗 教諭
支援員 一関市立舞川小学校 叶内 博行 教諭

授業について

- 単元の学習課題「なぜ中部地方には、生産額日本一の県が多くあるのか」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせる問いをもたせました。
- 本時においては、愛知・静岡で輸送用機械の生産が盛んであることに気付かせ、その理由について追究する課題意識をもてるようにしていました。
- 「工場同士のつながり(場所)」、「大都市圏との位置関係(位置や分布)」、「輸送面(空間的相互依存作用)」の視点から、生徒同士が協働的に資料を読み取り、課題解決を図る姿が見られました。また、調べたことを思考ツール(フィッシュボーン)にまとめることで、それぞれの視点を関係付けて考えることにつなげていました。

研究協議での話題から

- 豊富な資料を準備していたことで、追究活動が充実していた。
- 発問によって、学習課題を意識させたり、見方・考え方を働かせたりすることで深く追究させようとしていた。
- 課題解決に向けて学び方を選択し、協働的に追究する姿が見られた。
- 1枚のシートに単元課題の予想と課題解決の方法などを記入させて変容をみるようにして、評価に生かしている。



授業・研究協議から

県南教育事務所 藤村 和弘 主任指導主事

- 国語や数学等の諸調査の結果の分析から教科横断の資質・能力としての課題を洗い出し、社会科の授業に落とし込んで課題解決に向けて実践を行っている。そのことが指導案にも位置付いている。
- 学習改善につなげる評価、評定に用いる評価の場面を単元計画に位置付け、指導と評価の一体化を図っている。また、いつ、何で評価するのかを明確にしている。このように、評価はねらって取りに行くことが大切であり、それが可能となるように、資料の準備と学習活動を設定することが必要である。
- 問いで構成した単元計画となっている。問いを設定することで、どんな見方・考え方を働かせるかが明確になる。
- 全体への問い返しなどによって、問いが全員のものとなるようにすることが大切である。また、必要感のある資料の提示、生徒のニーズに応じた資料の提示が大切である。



【研修者の声(一部抜粋)】

授業改善に向けて

- ・ 先生方から授業づくりに対する様々な視点や考え方を知ることができた有意義な研修会でした。
- ・ 単元の課題を意識させた授業展開や課題設定の仕方の工夫について参考にしていきたいです。
- ・ 生徒が一生懸命考え、友達と協力して課題解決に向かう姿が印象的でした。
- ・ 授業を参観したことで、自分の授業に生かしたいことをたくさん見いだすことができました。
- ・ 自己の授業に対して分析し、改善できるような有意義な時間でした。